

さいたま赤十字病院 院外報

かがやき

FREE
ご自由に
お持ちください

Vol. 61
令和5年度
2号



美の山 合同訓練(令和5年6月28日~30日)
埼玉県内の医療従事者が集結し、合同訓練が行われました。

Contents

【整形外科 特集】

ロボティックアーム人工関節手術支援システムの導入 P2-3

▶ 新任・昇任挨拶 P4-5

▶ お仕事紹介コラム(臨床検査技師) P5

▶ さいたま市・さいたま市与野医師会・さいたま赤十字病院
合同災害訓練 P6

▶ 連携医療機関紹介 P7

▶ 総合支援センター便り P8



整形外科



治療方針

整形外科は運動器のトラブルを診断し治療する診療科です。

運動器とは身体運動に関わる骨、関節、神経、筋肉、腱、靭帯などの総称で、この運動器の治療を通じて、同じ長生きでも健康で活動的な生活を維持した健康寿命の向上を目指します。

現在 16 名の整形外科医が在籍し、専門性の高いものも含め年間 2000 件以上の手術を行っています。整形外科診療の中で需要の多い分野はおおむねカバーしていますが、当院で対応が難しい疾患の場合は専門施設へご紹介させていただくこともあります。

地域の基幹病院として近隣の病院やクリニックとも連携し、手術から保存治療まで、できる限り多くの患者さんの治療がスムーズに進められるよう努力しています。



得意分野

当科では各専門分野のエキスパートの医師を擁しております。

- | | |
|------------------|-----------|
| 1. 股関節、膝関節等の関節疾患 | 2. 脊椎疾患 |
| 3. 上肢の疾患 | 4. スポーツ障害 |
| | 5. 外傷 |

豊富な経験と最新の知見、技術を駆使し、患者さんによりよい治療を提供できるよう研鑽を積んでいます。

手術は特に股関節・膝関節の人工関節手術、脊柱管狭窄症をはじめとした脊椎の手術、上肢関連の手術などの手術件数が多く、なかでも人工股関節手術の件数は全国トップクラスです。



院内の連携体制

手術テクニックだけで患者さんの満足度や治療成績が決まるわけではありません。

持病をお持ちの患者さんや超高齢の患者さんに対しては、総合病院の強みを生かし各専門科の医師と連携して、より安全に手術を行えるよう努めています。

週 1 回の全体病棟回診では、ときに担当医だけでは目の届きにくい患者さんの細かな不安や不調を見逃さないよう、患者さんとのコミュニケーションを大切にしています。

さらに週 1 回、整形外科全医師、看護師、リハビリテーション科スタッフ、ソーシャルワーカー、事務職員を交えた多職種カンファレンスを行い、個々の患者さんの治療上の問題点を確認して解決策を話し合い、スムーズな退院や転院を目指しています。

整形外科部長（脊椎脊髄領域）

東成一

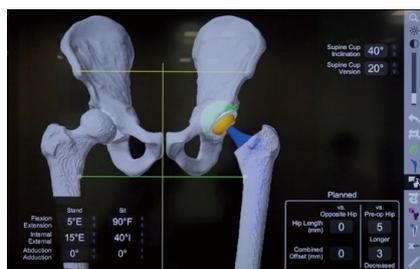
ロボティックアーム 人工関節手術支援システムの導入

人工関節置換術は変形性関節症に対する一般的な手術ですが、適切な術前計画を立て、計画通りの位置・角度で人工関節を正確に設置することは、人工股関節の成績を向上させるための重要な要素の一つです。近年日本でもより正確に設置するために、ロボット支援手術が可能となりました。

当院でも2023年8月よりロボティックアーム手術支援システムである、Stryker社の”MAKO®”が導入されましたので紹介させていただきます。

手術支援ロボット

Stryker社の”MAKO®”では、術前に撮影したCTを用いて手術計画を立てます。人工股関節全置換術の手術では手術中に骨盤を掘削する操作がありますが、計画と異なる位置や角度で掘削しようとする自動でブレーキがかかるようになっています。ロボット支援手術の分類でセミオートと呼ばれる制御方法で、これにより術前計画通りの掘削が可能となります。実際に人工股関節を挿入する時にもロボティックアームがインプラントをしっかりと把持することで、計画通りの角度で挿入することが可能になります。



適応疾患

当院でこのシステムを使用可能なのは、人工股関節全置換術 (THA)、人工膝関節全置換術 (TKA)、人工膝関節単顆置換術 (UKA) となります。「使用する人工関節に限られる」「小さな創を追加でつくる必要がある」「手術の準備や術中操作でプラスアルファの時間がかかる」といったデメリットもありますので、全例に必要とは考えていませんが、高難易度の症例を中心に使用することで手術の正確性が向上するものと思われます。また、手術の最中に自分が掘削している位置や角度を三次元画像でリアルタイムに確認することが出来るため、医師のスキルアップにも有用性があります。



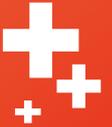
新しいシステムの導入により、地域の皆さんに対してより良質な医療を提供できるようになると考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

整形外科部長 (股関節領域)
古賀 大介



放射線治療科部長 新任挨拶

最新の治療機で長期の症状緩和を



放射線治療科部長 江里口 貴久

令和5年4月1日より放射線治療科部長を拝命いたしました江里口貴久（えりぐち たかひさ）と申します。

放射線治療は近年のコンピューターテクノロジーの進歩の恩恵を最も大きく受けた分野の一つです。例として、前立腺がんでは強度変調放射線治療（IMRT：照射野の中の線量強度をコンピュータ制御して最適化する技術）登場以前は根治には40回の照射が必要で、晩期障害[※]である直腸出血も20～30%と珍しくありませんでした。しかし、IMRTや画像誘導放射線治療（IGRT：治療直前あるいは照射中の画像を用いて照射位置を調整する技術）により1回線量を上げることができるようになったため、現在では5回の照射で済み、しかも直腸出血は数%まで減っています。

少ない回数で大線量を照射できるようになったことで、緩和照射においても短期の照射で長期の症状緩和を得ることが可能になってきました。また、照射精度が格段に良くなったことで、今までは難しいとされていた照射後の再発に対する再照射が可能な症例も増えてきています。

当院では昨年12月に放射線治療機を更新し、IMRTがさらに進化した強度変調回転型放射線治療（VMAT）が行える最新の治療機が入りました。また、当院は定位放射線治療（SRT、SBRT：いわゆるピンポイント照射）専用機であるサイバーナイフも有しており、症例に応じて最適な照射ができるように2台の治療機を使い分けています。根治から緩和まで、多くの患者さんに放射線治療をご提供できればと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

[※]晩期障害…治療が終了してから、数か月あるいは数年経過した後に生じる健康上の問題。（goo 辞典より引用）

緩和ケア診療科部長 昇任挨拶

つらさが少しでもやわらぐ援助を



緩和ケア診療科部長 割田 悦子

令和5年4月1日より緩和ケア診療科部長を拝命いたしました割田悦子（わりた えつこ）と申します。平成9年に医師免許を取得し、内科を8年、腫瘍内科を10年経験した後、埼玉県立がんセンター緩和ケア科に7年半勤務し、昨年10月に当院に着任いたしました。

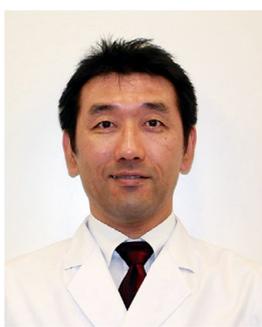
「緩和ケアという言葉は知っている、でも自分には関係ない」と思っておられる方も多いのではないのでしょうか。緩和ケアは「がん」だけではなく「命にかかわるような病気」、そして「患者さん」だけではなく「ご家族」ら



も広く対象としています。痛みが強くなってきた食欲が出ない先のことが心配、家族に迷惑をかけたくない、仕事はどうしたらいいの…このような様々なつらさは、病気を診断された時から経験されることも少なくありません。どのような病気、どのような時期であっても、つらさが少しでもやわらぐよう援助させていただければと考えております。当院には医師、看護師、薬剤師、公認心理師など様々な職種からなる緩和ケアチームがあり、主治医らと協力して診療にあたっております。緩和ケア診療は入院中、外来通院中いずれもご利用いただけますので、ご希望の方は主治医や看護師にお伝えください。

また、地域で医療等に従事されている方々からの緩和ケアに関するご相談もお受けしておりますので、詳しくは当院ホームページをご参照ください。

これまで、つらさを抱える患者さんやご家族からたくさんのお話を教えていただきました。誠実な診療に努めてまいりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



呼吸器外科部長 新任挨拶

“からだにやさしい治療”と“あきらめない治療”



呼吸器外科部長 大谷 真一

令和5年6月より呼吸器外科部長を拝命いたしました大谷真一（おおたにしんいち）と申します。これまで自治医科大学などで呼吸器診療に取り組んできました。この経験に基づき、皆様の健康に貢献できるよう尽力しますので、よろしくお願いいたします。

呼吸器外科で扱う病気は、肺がん、転移性肺腫瘍、縦隔（じゅうかく）腫瘍、気胸、膿胸などです。

日本人の臓器別がん死亡数は肺がんが最多で、治すのが難しい病気と言えます。肺がんを完全に治すのに最も効果的な治療は手術であり、肺がんは進行するまで症状がないことが多いので、検診を受けて手術が可能な早い時期に肺がんを見つけるようにしたいものです。

当院でのほとんどの呼吸器手術は、胸腔鏡（きょうくうきょう）を用いて数か所の小さな創で行います。また、より精密な手技ができるロボット手術も行っています。従来手術に比べて、傷痕が目立たなく、痛みが軽く、早期に社会復帰できる“からだにやさしい治療”を心がけています。

一方で、通常手術で取り切ることが難しい進行がんの場合には、他臓器の外科と連携して拡大手術を行い、“あきらめない治療”も目指しています。

当院では全ての手術を呼吸器外科専門医が行い、安全で正確なのが特色です。

近年のがん治療は多様化しております。小さな切除範囲で根治できるがんや、手術と薬物治療を組み合わせることで良好な予後が得られるがんなどが分かってきており、一人一人に最適化したオーダーメイド治療が求められています。当院では呼吸器内科・放射線科・病理診断科などと連携を取ることで、患者さんにとって最良の治療を提供できるように努めております。呼吸器疾患でお困りの時には、お気軽にお声がけください。

お仕事紹介コラム



臨床検査技師を知っていますか？



検査には、患者さんから採取した血液や尿、手術材料などを調べる検体検査と、患者さんの身体に直接触れて生体反応を記録する生理検査がありますが、今回は当院の生理検査業務についてご紹介します。

当院は診療科も多岐にわたり、「心電図」「心肺運動負荷検査（CPX）」「呼吸機能」「超音波」「脳波」「筋電図」「聴力」など様々な検査が依頼されます。心電図は心臓の微弱な電気の流れを記録しており、不整脈や虚血性変化、心負荷といった変化を確認できます。超音波は心臓・腹部・血管などの臓器に直接接触することなく観察できます。

一部の検査には一定の絶食時間といった事前準備が必要な場合もあり、円滑に検査を進め、そして正確な検査結果を得るために患者さんの協力、検査内容の



理解は大変重要と考えます。不安があればできる限り傾聴し安心して検査を受けて頂けるように、また迅速に臨床側が求めている結果報告が出来るように心がけています。当検査部は、令和3年12月に臨床検査室の国際規格ISO15189を取得しました。各技師が知識の向上に努め、より質の高い検査技術を提供できるようにしてまいります。

検査部 木部 佐紀



さいたま市・さいたま市与野医師会・さいたま赤十字病院 合同災害訓練



当院は令和3年にさいたま市、さいたま市与野医師会と三者協定を結び、「さいたま市医療救護所」を病院前に設置することが決まっています。この協定に基づき令和5年6月24日（土）に合同災害訓練を開催し、さいたま市、さいたま市与野医師会、当院から総勢33名が参加しました。

当院は大規模地震等の災害が発生した際には、被災した患者の診療を行うために通常の診療体制とは別に新たに診療エリアを設置します。その内の1つのエリアは上述の「さいたま市医療救護所」として、当院に参集したさいたま市与野医師会の医師・看護師等に引継ぎます。

本訓練では大規模地震が発生したとの想定で、さいたま市与野医師会の医師を対象に通信・参集訓練を行い、参集した医師会員に清田院長・救急部八坂部長より当院の災害時の体制の説明を行うとともに救護所レイアウト等を確認しました。参集した医師は当院の災害時の体制や救護所の運用についての説明に熱心に聞き入り、多くの質疑応答が行われ、実りのある訓練となりました。今後も災害時には迅速な医療救護活動が実施できるように訓練を続けてまいります。

救護社会課 田村 勝





連携医療機関紹介

当院では、地域医療支援病院としての責務を果たすべく、地域のかかりつけ医の先生方からの紹介患者さんに対し、専門的な治療や救急医療の提供を行っております。

ここでは、当院の心強いパートナーである医療機関をご紹介します。



クリニック しおや消化器内科クリニック

(かかりつけ医)



院長：塩屋 雄史

住所：さいたま市中央区本町東 3-3-3

TEL：048-840-4082

診療科：内 / 肝・胆・膵 / 胃・大腸 / リウマチ / 呼吸器 / 痔・肛門 / 健診

休診日：水曜、日曜、祝日



※詳細についてはホームページをご覧ください。
<https://www.shioya-clinic.com/>

当院は、埼京線与野本町駅徒歩3分の駅近で開業しております。当院の特徴3つをお話いたします。

専門医

常勤医3名のほか多数の専門医、計20名弱が在籍し診療しております。

早期診断

「早期診断」に注力しており、CT、胃カメラ、大腸カメラや腹部超音波などができる体制を整えています。

健診棟

来年健診棟を開業予定となっております。さいたま市健診以外に協会けんぽ等の健診にも力を注いでおります。

これからも地域の方々に役立つクリニックを提供し続けます。宜しくお願ひいたします。



連携病院 医療法人明浩会 西大宮病院



院長：関 純

住所：さいたま市大宮区三橋 1-1173

TEL：048-644-0511 (代表)

診療科：整・内・循・外・消・眼・泌
脳外・麻・放・形成・皮フ
リハビリ・リウマチ

休診日：土曜午後、日祝、年末年始



※詳細についてはホームページをご覧ください。
<https://nishiohmiya-hp.com/>

地域医療への貢献を掲げ今年で50年

当院は昭和48年に開設以降、これまで50年にわたり地域の皆さまへ優しく安全な医療の提供に尽力して参りました。これからもさいたま赤十字病院との連携を深め日々の診療に邁進して参ります。

回復期リハビリ、画像診断機器を地域有効活用

当院は一般急性期病床のほか回復期リハビリ病床を設置しています。さいたま赤十字病院をはじめとした高度急性期を担う医療機関からは、術後のリハビリを目的に多くの患者さんが転院されてきます。また地域開業の先生方には診断の補助となるCT、MRI装置の共同利用をご案内しています。

在宅医療を展開し、切れ目のない医療を提供

介護保険制度の施行に合わせて訪問看護ステーションを開設しました。同時に内科・整形外科を中心に定期訪問診療を行い、現在では訪問リハビリや通所リハビリを展開しています。これにより病院と在宅生活の隔たりが解消され、シームレスな医療提供を目指します。

入退院支援課

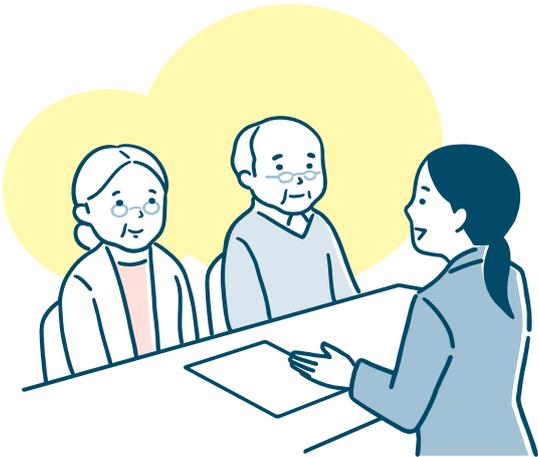
備えあれば憂いなし

入退院支援課 渡邊 明子

誰でも、いつでも、大きな病気やケガをする可能性があり、その時期を予想することはできません。

『人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）』という言葉をご存じですか。厚生労働省のホームページには『人生会議とは、自ら希望する医療やケアを受けるために大切にしていることや望んでいること、どこでどのような医療やケアを望むかを自分自身で前もって考え、周囲の信頼する人たちと話し合い、共有することをいいます。このような意思是心身の状態に応じて変化することがあるため、何度でも繰り返し考え、話し合うことが大切です。』と掲載されています。

入退院支援課では、入院・外来を問わず、患者さんが病気や障害を抱えながらも安心して住み慣れた自宅で生活が送れるよう、お住まいの地域の社会福祉に関連する職種や訪問診療、訪問看護等と連携をとりながら在宅療養に関する支援をおこなっています。



お一人おひとりの患者さんやご家族に、大切にしていることや望んでいること、どこでどのような医療やケアを望むかについてお話を伺っていきます。在宅療養を進めるにあたっては住居環境や受けたい介護サービス等、患者さんご家族の思いが必ずしも一致しないことがあります。また、患者さんの病状によっては早急に地域の関連職種と調整する必要があります。患者さんやご家族の気持ちに余裕がない中で、様々なことを決めていくのは心に負担がかかります。病状が安定している時に、ご自身の希望する医療やケアについて、周囲の信頼する方々と話し合っておくことは、病状が変化した際、慌てずに準備や対応ができるのではないかと思います。備えあれば憂いなしです。

ただし、『人生会議』は個人の主体的な行いによって考え進めるものであり、強制するものではないことを申し添えます。

さいたま赤十字病院の理念

赤十字の人道・博愛の精神に基づき、信頼される医療をおこないます。

さいたま赤十字病院の基本方針

1. 患者さんの権利を尊重します。
2. 地域との円滑な医療連携に努めます。
3. 医療の質の向上に努め、安全な医療を提供します。
4. 優れた医療人の育成に努めます。
5. 健康経営を推進し、働きやすく活気あふれる職場作りに努めます。
6. 国内及び国外での医療救援活動に積極的に参加します。

患者さんの権利

1. 公平で適切な医療を受ける権利
2. 個人の尊厳が保たれ、人権を尊重される権利
3. プライバシーが守られ、個人情報保護される権利
4. わかりやすい言葉で検査や治療などの説明を受ける権利
5. 自己の決定権が確認され、医療行為を選択する権利
6. 安全・安心な医療を受ける権利
7. 他施設の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞く権利
8. 自己の診療記録等の開示を求める権利

患者さんに守っていただく事項

1. 健康に関する情報を医師や看護師等にお知らせください。
2. 医療行為については、納得したうえで指示に従ってお受けください。
3. 病院内ではルールを守り、他の人に迷惑にならないよう行動してください。
4. 診療費の支払い請求を受けた時は、速やかにお支払いください。